

祇園祭

— 役行者山の名宝 —

平成30年1月20日(土) — 4月1日(日)

前期展示 = 平成30年1月20日(土) ~ 2月25日(日)

後期展示 = 平成30年2月28日(水) ~ 4月1日(日)

休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌日)

○但し2月27日(火)は展示替えのため休室します

開館時間：午前10時~午後7時30分

(入室は閉室の30分前まで)

会場：京都文化博物館 2階総合展示室
京のまつり

主催／京都府、京都文化博物館

協力／公益財団法人役行者山保存会、
公益財団法人祇園祭山鉾連合会

役行者の靈験譚に取材した 意匠をもつ山

京都市中京区室町通三条上ルの役行者町から祇園祭の山鉾巡行に出される役行者山は、役行者が大峰山と葛城山の間に橋を架けようとしたという逸話に取材した山です。山には役行者のほか葛城神と一言主神の三体の御神体人形が搭載されており、役行者の靈験にまつわる物語が展開されています。

役行者山は、室町時代の応仁・文明の乱(1467-77)が起こる以前から祇園祭の山鉾巡行に参加しているという長い歴史を重ねてきた山で、数々の優品が伝来している事でも知られています。例えば登り龍を紹刺刺繍で描いた旗二枚を継ぎ合わせて作られた見送や、唐子嬉遊図を綴織で表現した水引などは出色の品です。そのほかに、数々の飾金具の優品が伝え残されているのも役行者山の特色のひとつです。

今回の展示を通じて役行者山に伝来した品々の素晴らしさに触れていただくと共に、祇園祭の山鉾にまつわる歴史や文化の奥深さの一端を感じていただければ幸いです。



4. 見送 登龍図 紹刺刺繍

えんのきょうじゃ

役行者の靈驗譚と役行者山

役行者山には、修験道の開祖として名高い役行者が、行場のある大峰山と葛城山の間に石の橋を架けようとしたという逸話を基に場面構成がなされています。役行者山の上には、役行者を中央にして斧を持った鬼の姿の一言主神と女神像の葛城神が両脇に立ちます。逸話では、役行者が鬼神（一言主神）を使役して橋を架けさせようしますが、一言主神は自身の醜惡な姿を恥じて夜しか働かなかったので、役行者は一言主神を折檻したというものです。

この伝説には後日談があり、役行者の折檻に耐えかねた一言主神は、天皇に役行者が謀反を企んでいると讒言して、橋架工事を止めさせてしまったのだといひます。役行者町では、鬼の姿をした一言主神の像を「前鬼さん」とも呼んでいます。



祇園祭・役行者山



7. 水引 唐子嬉遊図 綴織



11. 葛城神衣裳 紅白段菊唐草文様唐織 小袖



12. 一言主神衣裳 鱗に仏具文様唐織 小袖

えんのぎょうじゃやま しやう ご いん
役行者山と聖護院

役行者町では、祇園祭の青山に修験道の総本山である聖護院（京都市左京区）から山伏を招いて護摩焚が行なわれます。修験道は役行者がその開祖といわれ、平安時代に日本古来の山岳信仰と密教等の思想が融合して成立しました。聖護院は長くこの修験道を統括してきた寺院のひとつで、役行者山とも深いつながりで結ばれてきました。青山の日の午後には、山伏姿の聖護院の僧が役行者町に來臨し、読経や聖矢を放つ儀礼を行ない、護摩焚をして役行者山とこれに携わる人びとの安全を祈願します。



役行者町での護摩焚の様子
 （提供：公益財団法人役行者山保存会）



1. 前懸 三点継(中)牡丹に胡蝶図(左右)波濤飛龍文様 綴織



20. 見送上部鍍金飾金具
 （弦月松・月兔文様・日輪牡丹・日鳥文様）



22. 動物文様鍍金見送裾飾金具



18. 角飾金具 二十八宿図文様鍍金



23. 轆先金具



17. 雲龍輪宝木瓜巴紋様鍍金金具付き欄縁

「祇園祭-役行者山の名宝-」主な出品資料

番号	資料名	時代	指定等	展示期間
1	前懸 三点継(中)牡丹に胡蝶図(左右)波濤飛龍文様 綴織	17世紀前半	重要有形民俗文化財	後期
2	後懸 四点継(左右)波濤飛龍文様(上) 牡丹梅・雲龍文様(中)鶴波濤文様 綴織	18世紀前半	重要有形民俗文化財	後期
3	胴懸 雲龍波濤図 綴織	17世紀前半	重要有形民俗文化財	前期
4	見送 登龍図 紹刺刺繍	17世紀後半	重要有形民俗文化財	前期
5	見送 草花額唐婦人嬉遊図 綴織	17世紀前半	重要有形民俗文化財	後期
6	見送 草花額唐婦人嬉遊図 綴織／裏隠し(上)波濤に 鳥刺繍補子継合(下)桔梗木瓜鳥兜文様 錦	昭和61年(1986)復元新調／ 江戸時代中～後期	重要有形民俗文化財	後期
7	水引 唐子嬉遊図 綴織 西山勘七作	文化8年(1811)	重要有形民俗文化財	後期
8	役行者衣裳 白地菱襷文様唐織 小袖		重要有形民俗文化財	前期
9	役行者衣裳角帽子 二重蔓牡丹唐草文様金襴	天保10年(1839)	重要有形民俗文化財	前期
10	役行者衣裳袷袢	天保10年(1839)	重要有形民俗文化財	前期
11	葛城神衣裳 紅白段菊唐草文様唐織 小袖	嘉永4年(1851)	重要有形民俗文化財	前期
12	一言主神衣裳 鱗に仏具文様唐織 小袖	嘉永4年(1851)	重要有形民俗文化財	後期
13	役行者所持物(金銅鍍金錫杖頭・経巻・中啓)		重要有形民俗文化財	前期
14	葛城神所持物(宝具・中啓)		重要有形民俗文化財	前期
15	一言主神所持物(飾太刀・斧・赤頭・中啓)	飾太刀は元禄15年(1702)銘	重要有形民俗文化財	後期
16	蓮華唐草文様面袋(安楽庵裂)額装	16世紀中頃		後期
17	雲龍輪宝木瓜巴紋様鍍金金具付き欄縁	昭和4年(1929)	重要有形民俗文化財	前期
18	角飾金具 二十八宿図文様鍍金	江戸時代後期	重要有形民俗文化財	前期
19	角飾金具 三十六獣角金物	江戸時代後期	重要有形民俗文化財	前期
20	見送上部鍍金飾金具 (弦月松・月兔文様・日輪牡丹・日鳥文様)	明治29年(1896)	重要有形民俗文化財	後期
21	見送上部飾金具(宝珠)	文化6年(1809)頃		前期
22	動物文様鍍金見送裾飾金具	江戸時代後期	重要有形民俗文化財	後期
23	轆先金具	江戸時代後期 (ただし4点のみ昭和4年に修復)	重要有形民俗文化財	後期
24	旧欄縁角金具	江戸時代中期		前期
25	旧欄縁角金具	文化6年(1809)頃		前期
26	旧角飾金具	文化6年(1809)頃		後期
27	金銅製灯籠	江戸時代後期		後期
28	くじ箱	明治37年(1904)		通期
29	役行者御神号「南無神変大菩薩」写	嘉永7年(1854)		前期

※出品する資料は全て公益財団法人役行者山保存会の所蔵品です。

※都合により展示資料を変更する場合があります。

※前期展示＝平成30年1月20日(土)～2月25日(日) 後期展示＝平成30年2月28日(水)～4月1日(日)